農業科　学習指導案	
科目名	畜産
使用教科書	実教出版　畜産
単元名	第４章　家畜の飼育　　４　肉牛の飼育
単元の目標	家畜の飼育や繁殖、飼料の給与や畜産物の商品化などとの関連から捉える学習活動により、農業生産工程管理（GAP）や危害分析・重要管理点方式（HACCP）などに基づく家畜の飼育と管理、その評価ができるようにする。

単元の評価規準		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家畜の飼育と管理・評価について理解し、関連する技術を身に付けている。	家畜の飼育と管理・評価に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	家畜の飼育と管理・評価について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

指導と評価の計画（１１時間＋ペーパーテスト）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準）
1	世界の肉牛の頭数や肉牛の品種について学ぶ。	知		世界の牛の品種について調べ特徴を理解できる。（ペーパーテスト）
2	日本で飼育されている和牛の特徴について学ぶ。	知主		和牛の４品種の特徴を説明できる。（ペーパーテスト）
3	よい肉用種牛（繁殖牛）の選び方において肉牛改良の重要性を学ぶ。	知		肉牛改良のポイントを理解し、説明できる。（ペーパーテスト）
4	肉牛審査標準について学ぶ。	知		審査のポイントを理解して説明できる。（ペーパーテスト）
5	繁殖の分娩について学ぶ。	思表	○	絵を描いて分娩の状態を説明できる。（記述）
6	肉用牛の「登録」について学ぶ。	知		子牛登記、繁殖の基本、本原、高等登録を説明できる。（ペーパーテスト）
7	和牛の血統証の見方（和牛の三大祖）について学ぶ。	知主	○	血統証から、三代祖を読み取ることができる。（記述）
8	本県種雄牛（和牛の三大系統）について学ぶ。	知		気高、田尻、藤良系の３系統の特徴を理解できる。（記述）
9	和牛の育種価について学ぶ。	思主	○	データを理解し、データを活用した考察をすることができる。（記述）
10	和牛の検定について学ぶ。	知		後代、直接検定について説明することができる。（記述）
11	肉牛の経営について学ぶ。	思判	○	肉牛の経営について、科学的な根拠に基づいた提案ができる。（記述）

宮崎県立高鍋農業高等学校

農業科（　科目：畜産（肉用牛）　）　学習指導案

指導者　指導教諭　佐藤　登士夫

１　授業日時
　令和５年１１月２日（木）　３時間目　１１：００～１１：５０
２　実施場所
　本校　２年畜産科学科教室
３　対象クラス
　２年　畜産科学科　（２３名）
４　本時の目標
　データの「分散」「標準偏差」を理解し、畜産経営のデータ分析に活用することで、よりよい改善方法を考える。
５　学習指導過程（　９　／　１１時間　）

学習場面	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入 ５分	ClassroomのGoogleフォームにてアンケートに答えて返信する。	出席確認 アンケートの実施 （Google フォーム） アンケートの集約・説明	
展開 ４０分	育種価について理解する。 **問１）遺伝的能力はどちらが高いのか考えよう！**	PowerPoint を使用して、産肉形質の説明をする。 推定育種価の分布図を説明する	思考・判断・表現 （ワークシート）
	問２）本校とA農家の枝肉重量について、比較してみよう！		思考・判断・表現 （ワークシート）
	「平均」と「標準偏差」を理解する。（数学の復習） ＊A 農家を例題として、取り上げて考える。 １、スプレットシートで、入力をさせ、グラフ化する。 ２、計算をする。 ３、本校の課題について検討する。 ４、県内のデータにおけるグラフを理解する。（正規分布）	Classroom にスプレットシートを送付し、入力させる。 気づいたことを記入させる。 データを表示して説明する。	思考・判断・表現
まとめ ５分	本時の振り返り（アンケート、自己評価を含む）を行う。	Google フォームでアンケートを入力する。 今後、課題研究やデータ分析に繋げるように説明する。	主体的に取り組む態度

＊教科横断における授業
教科「農業」畜産　⇔　数　学Ⅰ　→　「農業」課題研究につなげる

６　評価のめやす

【思考・判断・表現】

活　動	A（十分満足できる状況）	B（おおむね満足できる状況）	C（努力を要する状況）
グラフを作成する。	グラフから経営に結びつく考察をすることができた。	グラフから考察をすることができた。	グラフの意味を理解することができなかった。

【主体的に取り組む態度】

活　動	A（十分満足できる状況）	B（おおむね満足できる状況）	C（努力を要する状況）
本時の振り返り（Google フォームへの入力）	本時の自分を振り返り、課題研究や今後の畜産経営に繋がる具体的な提案や取り組みの記述がある。	本時の自分を振り返り、課題研究や今後の畜産経営に繋がる記述がある。	今後についての記述がない。